



HARMAN

TUNER2 FM

取扱説明書

安全上のご注意

- 使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。また、お読みになった後は大切に保管してください。
- ここに示した注意事項は、お使いになる人や、他人への危害、財産への損害を未然に防ぐための内容を記載していますので、必ずお守りください。
- 次の表示の区分は、表示内容を守らず、誤った使用をした場合に生じる危害や損害の程度を説明しています。

警告 この表示は、取り扱いを誤った場合、「死亡または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

注意 この表示は、取り扱いを誤った場合、「傷害を負う可能性が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される」内容です。

- 次の絵表示の区分は、お守りいただく内容を説明しています。

- ⊘ 禁止（してはいけないこと）を示す記号です。
- ⊘ 水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
- ⊘ 分解してはいけないことを示す記号です。
- ⊘ 濡れた手で扱ってはいけないことを示す記号です。
- ⊘ 煙が出る場合、異常なおいや音がする場合は、すぐにAC電源アダプタをコンセントから抜く。煙が出なくなるのを確認して販売店または弊社サービスセンターに修理を依頼してください。
- ⊘ 本機の内部に異物を入れない。万一、本機の内部に異物が入った場合は、AC電源アダプタをコンセントから抜いて販売店または弊社サービスセンターに点検をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
- ⊘ アルコール・シンナーなどの引火性溶剤の近くに設置しない。引火性溶剤が本機内部の電源部品などに接触すると、火災や感電の原因となります。
- ⊘ 分解や改造をしない。感電の原因となります。
- ⊘ 調理台や加湿器の近くなど油煙や湯気があたる場所に設置しない。火災・感電の原因になることがあります。
- ⊘ 直射日光があたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）に設置しない。キャビネットや内部回路に影響が生じ、火災の原因になることがあります。
- ⊘ オーディオ機器を接続するときは、それぞれの機器の取扱説明書に従い、指定のケーブルを使用して接続する。指定以外のケーブルを使用すると発熱し、やけどの原因になることがあります。

警告

- ⚠ AC電源アダプタは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。万一の場合、AC電源アダプタを容易に引き抜くためです。
- ⊘ 付属品以外の電源コードは使用しない。火災の原因になることがあります。
- ⊘ 船舶などの直流（DC）電源には接続しない。火災の原因になります。
- ⊘ 電源コードを束ねた状態で本機を使用しない。火災・感電の原因になります。
- ⊘ 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしない。電源コードが破損して火災・感電の原因になります。
- ⚠ AC電源アダプタは、コンセントの根元まで確実に差し込む。AC電源アダプタを正しく差し込まずに本機を使用すると、火災や感電の原因になります。
- ⊘ タコ足配線しない。発熱により火災・感電の原因になります。
- ⊘ テーブルタップ（延長コード）を使用しない。発熱により火災・感電の原因になります。
- ⊘ 雷が鳴りはじめたら、電源アダプタには触れない。感電の原因になります。
- ⊘ 電源コードの上に重いものをのせたり、電源コードを本機の下敷きしない。電源コードが破損し、火災・感電の原因になります。
- ⊘ 濡れた手でコンセントを抜き差ししない。感電の原因になります。
- ⊘ 長期間本機を使用しないときは、AC電源アダプタをコンセントから抜く。火災・感電の原因になります。
- ⊘ AC電源アダプタを抜くときは、電源コードを引っばらない。電源コードが破損して火災・感電の原因になることがあります。
- ⚠ AC電源アダプタは、コンセントの根元まで確実に差し込む。AC電源アダプタを正しく差し込まずに本機を使用すると、火災や感電の原因になります。
- ⊘ ほこりや湿気の多い場所に設置しない。ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となります。
- ⊘ 不安定な場所や振動する場所に設置しない。本機が落下や転倒して、けがの原因となります。
- ⊘ 移動するときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。
- ⊘ 薬物厳禁。ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また、接点復活剤を使用しない。外装が曇ったり、部品が溶解することがあります。

注意

- ⊘ ほこりや湿気の多い場所に設置しない。ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因となります。
- ⊘ 不安定な場所や振動する場所に設置しない。本機が落下や転倒して、けがの原因となります。
- ⊘ 移動するときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。コードが傷つき、火災や感電の原因になります。
- ⊘ 薬物厳禁。ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また、接点復活剤を使用しない。外装が曇ったり、部品が溶解することがあります。

電池についてのご注意

- ⚠ 電池の液が漏れたときは直ちに火気より離す。漏液した電解液に引火し、破裂、発火する原因になります。また電池の液が目に入ったり体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因になります。
 - 液が漏れたとき
 - 漏れた液に触れないように注意しながら、直ちに火気より離してください。乾いた布などで電池ケースの周りをよくふいてください。
 - 液が目に入ったとき
 - 目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い、ただちに医師の診察を受けてください。
 - 液が体や衣服についたとき
 - すぐに水道水などのきれいな水で十分洗い流してください。
- ⚠ 電池について以下のことに注意する。本製品はリチウム電池を使用しています。リチウム電池にはリチウムが含まれており、誤った使用、取り扱い、廃棄により爆発する恐れがあります。
 - 火の中に入れたり、加熱したりしないでください。また、直射日光のあたる場所、高温多湿の場所、車中等に放置しないでください。
 - 使用中、保管時等に発熱したり、異臭を発したり、変色、変形、その他今までと異なる場合は使うのを止めてください。
 - 電子レンジや高圧容器に入れてください。
 - 水、海水、ジュースなどで濡らさないでください。
 - 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。

Bluetooth® に関するご注意

本機は、2.4GHzの周波数帯の電波を利用しています。この周波数の電波は、一般家庭でもいろいろな機器（電子レンジやコードレス電話など）で使用されています。以下のような場所で本機を使用する場合、送信/受信ができなくなることがあります。

- 2.4GHzを利用する無線LAN、また電子レンジなどの機器の磁場、静電気、電波障害が発生するところ。（環境により電波が届かない場合があります。）
- ラジオから離してお使いください。（ノイズが出る場合があります。）
- テレビにノイズが出た場合、本機（および本機対応製品）がテレビ、ビデオ、BSチューナー、CSチューナーなどのアンテナ入力端子に影響を及ぼしている可能性があります。本機（および本機対応製品）をアンテナ入力端子から遠ざけて設置してください。

注意

- 本機の使用によって発生した損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
- 本機は、全てのBluetooth機器との接続動作を保証するものではありません。
- 弊社ではお客様の接続機器に関する通信エラーや不具合について、一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

安全にお使いいただくために

- 高精度な制御や微弱な信号を取り扱う電子機器の近くでは使用しない。電子機器に誤動作するなどの影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。
- 航空機内や病院など、使用を禁止された場所では使用しないでください。電子機器や医療用電気機器に影響を与え、事故の原因となる恐れがあります。医療機関などの指示に従ってください。

ご注意ください電子機器の例

補聴器、ペースメーカー、その他医療用電気機器、火災報知器、自動ドア、その他自動制御機器など。ペースメーカー、その他医療用電気機器をご使用される方は、該当の各医療用電気機器メーカーまたは販売業者に電波による影響についてご確認ください。

電波法に基づく認証について

本機は電波法に基づく小電力データ通信の無線設備として認証を受けています。従って、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。ただし、以下の行為を行うと法律により罰せられることがあります。

- 本機を分解/改造すること。
- 本機に掲示している証明表示を消したりはがすこと。

周波数について

この無線機器は2.4GHz帯を使用します。変調方式としてFHSS（周波数拡散方式）を採用し、想定される干渉距離は約10mです。



この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場

の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

- 1 この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
- 2 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、弊社サービスセンターにご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談して下さい。
- 3 その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社サービスセンターへお問い合わせ下さい。

本機の防水性能について

本製品は、防水規格 IPX7 相当の仕様となっています。一時的に一定水圧の条件に水没しても内部に浸水することがない「防浸形」です。

- ※ 完全防水ではありませんので水中では使用しないでください。
- ※ 水がかかる恐れのある場所で充電したり、防水仕様ではない USB ケーブルやオーディオケーブルを接続して使用しないでください。
- ※ 万一、本機が濡れた後に動作不良が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。お客様の誤った取り扱いが原因の浸水による故障の場合は、保証対象外となりますのであらかじめご了承ください。

表示言語について

本機の LCD ディスプレイに表示されるメッセージなどは、日本語の他、英語、ブラジルポルトガル語、ロシア語、中国語（簡体）、スペイン語およびフランス語の 7 か国語での表示が可能です。
お買い上げ時の表示言語は日本語です。
この取扱説明書では、日本語表示を使用して説明しています。

付属品

お使いになる前に、以下の付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

- USB ケーブル (TypeA ↔ TypeC)



- クイックスタートガイド (QUICK START GUIDE)
- 保証書 (WARRANTY CARD)
- 安全シート (安全に関する重要な指示)

ワイド FM 放送について

本機は、FM の 90MHz 以上の周波数を受信できる、ワイド FM に対応しています。

ワイド FM (FM 補完放送) とは、AM 放送局の放送エリアにおいて、難聴対策や災害対策のために、新たに FM 放送用として使用可能とした周波数を加えた FM 放送用の周波数 (76.1 ~ 95MHz) により AM 放送の放送番組を放送するものです。

FM 放送は AM 放送と比べて比較的狭い地域を対象としており、お使いの地域によって受信できる放送局は異なります。

本機が受信できるワイド FM 放送局は、2020 年 2 月時点で放送開始済みの放送局、および一部の放送開始予定局です。下記の一覧表をご確認ください。

放送開始時期や局名などの最新情報は総務省の Web ページでご確認ください。

地区	周波数 (MHz) *	放送局名	地区	周波数 (MHz) *	放送局名
北海道エリア	91.5	HBC 北海道放送	近畿エリア	94.9	KBS 京都
	90.4	STV ラジオ		90.6	毎日放送
東北エリア	91.7	RAB 青森放送		93.3	ABC ラジオ
	90.6	IBC 岩手放送		91.9	ラジオ大阪 OBC
	93.5	TBC 東北放送		91.1	ラジオ関西
	90.1	ABS 秋田放送		94.2	WBS 和歌山放送ラジオ
	92.4	山形放送 (YBC)	中国エリア	92.2	BSS 山陰放送
90.8	ラジオ福島 (RFC)	91.4		RSK 山陽放送	
関東エリア	90.5	TBS ラジオ		94.6	RCC 中国放送
	91.6	文化放送	92.3	KRY 山口放送	
	93.0	ニッポン放送	四国エリア	93.0	JRT 四国放送
	94.6	IBS 茨城放送		90.3	西日本放送
	94.1	CRT 栃木放送		91.7	RNB 南海放送
信越エリア	92.7	BSN 新潟放送	90.8	高知放送	
	92.2	SBC 信越放送	九州・沖縄 エリア	91.0	RKB 毎日放送
	北陸エリア	90.2		北日本放送	90.2
94.0		MRO 北陸放送		92.6	NBC 長崎放送
94.6		FBC-i 福井放送		91.4	RKK 熊本放送
東海エリア	93.9	SBS ラジオ		93.3	OBS 大分放送
	93.7	CBC ラジオ		90.4	MRT 宮崎放送
	92.9	東海ラジオ		92.8	MBC 南日本放送
	90.4	ぎふちゃん		92.1	RBCi ラジオ琉球放送
				93.1	ROK ラジオ沖縄

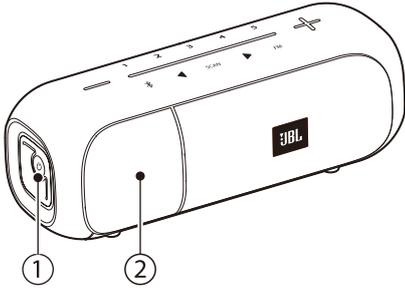
※ 代表的な周波数帯です。受信地域により異なることがあります。

• 最新の情報は総務省ホームページをご確認ください。

https://www.soumu.go.jp/menu_seisaku/ictseisaku/housou_suishin/fm-list.html

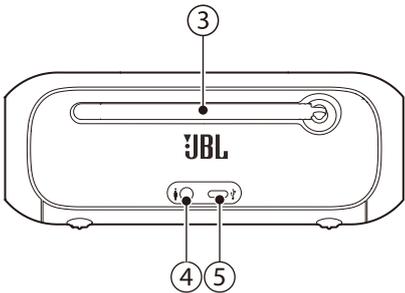
各部の名称とはたらき

▶ 前面 / 左側面



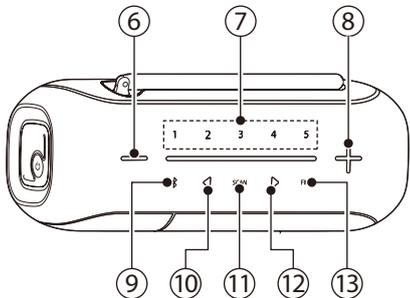
- ① 電源ボタン (⏻)
本機の電源を入れる / 切るときに押します。
- ② LCD ディスプレイ
本機の現在のモードや内蔵電池の充電状態などの情報を表示します。

▶ 背面



- ③ FM ロッドアンテナ
FM 放送を受信中は、アンテナを伸ばして、受信状態がもっとも良くなるように向きと角度を調節します。
- ④ オーディオ入力端子
3.5mm ステレオミニジャックです。市販の 3.5mm ステレオミニプラグ付きオーディオケーブルを使用して PC などの音源機器を接続することができます。
- ⑤ USB Type-C 端子
付属の USB ケーブルを使用して充電します。

▶ 上面



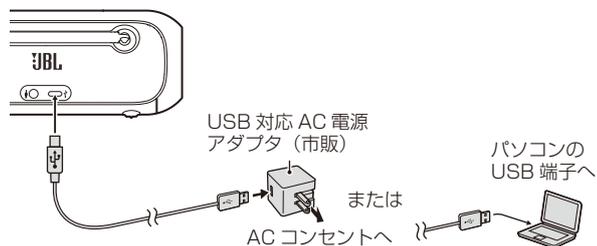
- ⑥ 音量-ボタン
音量を下げるときに押します。
- ⑦ プリセットボタン (1 ~ 5)
FM 放送局をプリセットします。ボタン 1 ~ 5 まで、最大 5 局をプリセットすることができます。
- ⑧ 音量+ボタン
音量を上げるときに押します。
- ⑨ Bluetooth ボタン (📶)
Bluetooth 対応機器とペアリングするときに使用します。
- ⑩ ◀ ボタン
マニュアルチューニングするときに押します。
- ⑪ SCAN ボタン
FM 放送局のスキャンを開始・停止するときに押します。
- ⑫ ▶ ボタン
マニュアルチューニングするときに押します。
- ⑬ FM ボタン
FM 放送受信モードに切り替えるときに押します。

充電する

付属の USB ケーブルを電源コードとして使用し、充電します。
充電時間は約 3.5 時間*です。

*充電電池が空の状態から満充電になるまでの時間です。

- ① 背面の USB Type-C 端子に USB ケーブルを接続する。
- ② USB ケーブルを、市販の USB 対応 AC 電源アダプタを使用し
てコンセントに接続する。
または、お手持ちのパソコンの USB 端子に接続します。



LCD ディスプレイに充電インジケータ (🔋) が表示され、充電中であることを示します。

充電が完了すると充電インジケータが (🔋) に変わります。USB ケーブルをはずしてください。

ご注意

- 付属の USB ケーブルは防水仕様ではありません。水がかかる恐れのある場所で、USB ケーブルを接続して使用しないでください。
- 充電には必ず付属の USB ケーブルをご使用ください。
- 充電の最大速度は 5V/1.2A です。これ以下の AC 電源アダプタを利用する場合は、AC 電源アダプタの供給能力に合わせて充電されます。

表示言語を切り替える

LCD ディスプレイに表示されるメッセージなどは、お買い上げ時は日本語に設定されています。

表示言語は、日本語の他、英語、ブラジルポルトガル語、ロシア語、中国語 (簡体)、スペイン語およびフランス語の 7 か国語での表示が可能です。

ご注意

表示言語を切り替えると、音量や FM 放送局のプリセットなどの設定がリセットされます。(プリセット情報はクリアされません。) そのため、次に FM の受信などを始めると思わぬ音量になることがあります。必要がない限り、言語表示は切り替えずに使用することをお勧めします。

表示言語は、以下の手順で切り替えます。

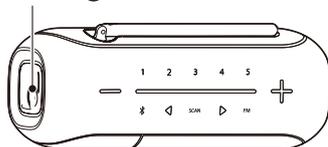
- ① 本機の電源を入れる。
- ② Bluetooth ボタン (📶) とプリセットボタン 1 を同時に 10 秒以上押し続ける。
LCD ディスプレイに [再設定] と表示された後、電子音が鳴り、次の言語の候補である [English] (英語) が表示されます。
- ③ ◀ / ▶ ボタンを押して希望の言語を表示させる。
▶ ボタンを押すごとに、[English] (英語) → [日本語] → [Español] (スペイン語) → [Русский] (ロシア語) → [Portugues] (ブラジルポルトガル語) → [简体中文] (中国語 (簡体)) → [Français] (フランス語) の順に切り替わります。
◀ ボタンを押すと、この逆の順に切り替わります。
- ④ 希望の言語を表示して SCAN ボタンを押す。
言語が切り替わるとともに、FM 放送局のスキャンが始まります。スキャンを停止するには、もう一度 SCAN ボタンを押します。

電源を入れる / 切る

▶ 電源を入れる

電源ボタン (🔋) を押します。

電源ボタン (🔋)



お買い上げ後初めて電源を入れたとき

電子音が鳴り、LCD ディスプレイに [日本語] (お買い上げ時の表示言語) と表示されます。

SCAN ボタンを押して FM 放送局のスキャンを開始してください。電波が十分に強い局を受信するとその放送局の受信モードに入り、[FM 80.00MHz] のように、受信中の局の周波数が表示されます。

2 回目以降に電源を入れたとき

電子音が鳴り、LCD ディスプレイに現在の動作モードが表示されます。

例：FM 受信モードのときは [FM 80.00MHz] のように、受信中の局の周波数が表示されます。

* 本機の電源がオンのときは、LCD ディスプレイに内蔵電池の残量がアイコン (🔋) で示されます。

* 電源を入れてしばらく経つと、電池の節約のため LCD ディスプレイの表示が暗くなります。

▶ 電源を切る

電源ボタン (🔋) を押します。

電子音が鳴り、本機がオフになります。

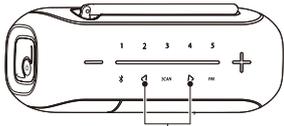
オートパワーオフ機能について

本機が電源オンのとき、30 分以上音声入力がなく、操作が行われない状態が続くと、自動的に電源がオフになります。引き続き使用する場合は、本機の電源を入れ直してください。

FM 放送を聞く

▶ マニュアルチューニング

◀ / ▶ ボタンを使用して希望の放送局を受信します。

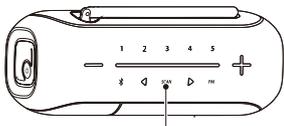


◀ / ▶ ボタン

- ① 本機の電源を入れる。
FM 受信モードになります。
- ② ◀ / ▶ ボタンを押す。
▶ ボタンを押すごとに 0.1MHz 単位で周波数が大きくなり、◀ ボタンを押すごとに 0.1MHz 単位で小さくなります。76.10MHz ~ 95.00MHz の範囲で切り替えることができます。
希望の放送局を受信するまで操作してください。

▶ スキャンする

SCAN ボタンで受信周波数を自動的に上げていきます(スキャン)。放送局を受信するとスキャンが停止します。

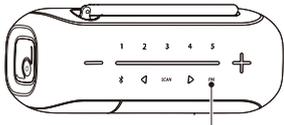


SCAN ボタン

- ① SCAN ボタンを押す。
現在の周波数からより大きい方向にスキャンが始まります。
95.00MHz に達すると再び 76.10MHz に戻りスキャンが続きます。
電波状態が良好な放送局（本機が受信可能な放送局）が見つかったらスキャンが停止します。

▶ 受信できないときは

誤操作により Bluetooth のペアリング設定状態に入ったときなどに FM 受信モードに戻すには、FM ボタンを押します。

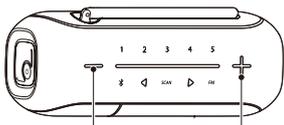


FM ボタン

ただし、オーディオ入力端子にオーディオケーブルを接続しているときは FM 受信モードに戻すことはできません。
(LCD ディスプレイに [外部入力を抜いてください] というメッセージが右から左にスクロールして表示されます。FM 受信モードに戻すにはオーディオケーブルを抜いてください。)

▶ 音量を調節する

音量+ / 音量- ボタンで音量を調節してください。

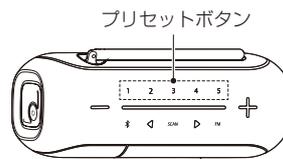


音量+ / 音量- ボタン

音量- ボタンでミュート（無音）状態まで音量を下げると、ミュートインジケータ（）が表示されます。

放送局をプリセットする

本機のプリセットボタンによく聞く放送局をプリセットしておくと、プリセットしておいたボタンを押すだけでその放送局を受信することができます。プリセットボタンは 1 から 5 まであり、最大 5 局をプリセットできます。



- ① プリセットしたい放送局を受信する。
- ② 放送局をプリセットするボタン（1 ~ 5 のいずれか）を、2 秒以上押し続ける。
例：プリセットボタン 1 に 80.00MHz の放送局をプリセットした場合
LCD ディスプレイに [P1 保存済み 80.00MHz] というメッセージが右から左にスクロールして表示された後、[FM P1 80.00MHz] という表示に切り替わります。

上記の手順でプリセット済みのボタンに別の放送局をプリセットし直すこともできます。

Bluetooth 接続で使用する

Bluetooth 機能を使って、スマートホンなどの Bluetooth 対応デバイスの再生音を本機でワイヤレス再生することができます。

そのためには、はじめに本機と Bluetooth 対応デバイスを認識させる「ペアリング」が必要です。

▶ ペアリングを行う

以下の手順は一例です。詳細については、接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。

- ① 本機の電源を入れる。
- ② Bluetooth ボタン (📶) を押す。
LCD ディスプレイに [BT ペアリング] と表示され、ペアリング設定状態になります。
- ③ デバイス側でペアリングを行い、登録 / 接続する。
ペアリングが完了すると LCD ディスプレイに [BT 接続済み] と表示されます。
- ④ 接続したデバイスで再生を始める。
本機から再生音が聞こえます。

iPhone/iPod/iPad の場合 :

- ① iPhone/iPod/iPad をペアリング設定状態にする。
「設定」→「Bluetooth」の順にタップした後、「Bluetooth」を「オフ」から「オン」にします。
Bluetooth に接続できるデバイスの一覧が表示されます。
- ② デバイスの一覧から「JBL Tuner 2 FM」を選択する。
ペアリングが完了すると、デバイス上で「接続済み」と表示されます。



本機の LCD ディスプレイには、[BT 接続済み] と表示されます。

その他の機器の場合 :

- ① 接続する機器をペアリング設定状態にする。
機器側で、本機を検出可能な状態に設定します。お使いの機器の取扱説明書も併せてご覧ください。
パスキーが必要な場合は「0000」と入力します。
機器によっては、接続を確認するメッセージが表示されます。
- ② 機器側でペアリング操作を行い、登録 / 接続する。
ペアリングが完了すると LCD ディスプレイに [BT 接続済み] と表示されます。

本機は一度ペアリングを行ったデバイスの情報を記憶していますので、ペアリングを行ったあとは、本機の電源を入れ、接続したいデバイスの Bluetooth をオンにするだけで接続が完了します。

▶ Bluetooth 再生を行う

必要に応じて、デバイス側で本機を再生機器として設定してください。Bluetooth 接続したデバイスで再生を始めると、本機から再生音が聞こえます。

再生の制御

音量の調節、再生の一時停止や再開、次の曲へのスキップや前の曲へのバックスキップなど、再生の制御は接続したデバイス側で行ってください。

• 音量の調節は本機の音量+ / 音量- ボタンでも行うことができます。

一時的に FM 放送受信に切り替える

Bluetooth 接続したデバイスでの再生中、FM ボタンやプリセットボタンを押すと FM 放送の受信に切り替わります。

デバイス側は再生の一時停止状態になります。

Bluetooth デバイスの再生に戻すには、本機の Bluetooth ボタン (📶) を押します。

LCD ディスプレイに [BT 接続済み] と表示されたことを確認し、デバイス側で再生を始めてください。

▶ Bluetooth 接続を解除する

Bluetooth 対応デバイスの「このデバイスの登録を解除」を選択してください。

オーディオ機器の再生音を聞く

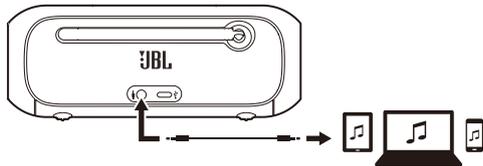
市販の 3.5mm ステレオミニプラグ付きオーディオケーブルを使用してオーディオ機器や PC の音声出力端子 (3.5mm ステレオミニジャック) に接続し、音声を再生することができます。

ご注意

オーディオ機器や PC の音量は低めに設定して接続してください。再生を始めると、思わぬ大音量となることがあります。

▶ 接続

オーディオケーブルの一方のプラグを本機のオーディオ入力端子に、もう一方をオーディオ機器や PC の音声出力端子に接続します。



▶ 再生

- ① 本機の電源を入れる。
LCD ディスプレイに [AUX 外部入力モード] と表示されます。
- ② 接続したオーディオ機器 / PC で再生を始める。

音量の調節、再生の一時停止や再開、次の曲へのスキップや前の曲へのバックスキップなど、再生の制御は接続したデバイス側で行ってください。

- 音量の調節は本機の音量+ / 音量- ボタンでも行うことができます。

本機のオーディオ入力端子にオーディオケーブルを接続している状態では、FM 放送の受信や Bluetooth デバイスの再生に切り替えることはできません。

切り替えようとすると、LCD ディスプレイに [外部入力を抜いてください] というメッセージが右から左にスクロールして表示されます。

トラブルシューティング

症状	解決法
本機の電源ボタンを押しても電源が入らない。	本機が充電されているかご確認ください。
電源は入るが、音が出ない。	FM 放送の受信中は、音量を上げてください。 Bluetooth デバイスの再生中は、デバイスまたは本機で音量を上げてください。 オーディオ入力端子に接続したオーディオ機器・PC の再生中は、機器または本機側で音量を上げてください。
音が歪む。	音量が上がりが過ぎている場合は音量を下げてください。
FM 放送受信中、サーという音がする。	電波が弱いのが原因です。アンテナを伸ばしきった状態で方向・角度を調節してみてください。
FM 放送受信中、雑音が入る。	外部から雑音を拾っているのが原因です。アンテナを伸ばしきった状態で方向・角度を調節したり、テレビや蛍光灯などの電気製品から本機を離してみてください。
Bluetooth でペアリングできない。	お手持ちの機器が本機と対応しているかどうかご確認ください。 別の機器と Bluetooth 接続していないかどうかご確認ください。本機は一度ペアリングを行った機器の情報を記憶しています。再生したい機器を再接続する場合は、現在ペアリングされている Bluetooth 機器をオフしてください。

主な仕様

製品名	JBL TUNER2 FM
再生時間・充電時間	約 12 時間再生・約 3.5 時間充電 (5V/0.9A 時) ※1 ※2
防水機能	IPX7 ※3
外形寸法 (幅×高さ×奥行)	180 × 70 × 72 (mm)
重量	約 540g
Bluetooth	バージョン 4.2 (Class 2)
対応プロファイル	A2DP、AVRCP
スピーカー構成	44.45mm 径ドライバー× 1、パッシブブラジエーター× 1
最大出力	最大 5W
周波数特性	80Hz - 20kHz
付属品	充電用 USB Type-C ケーブル (1.2m)

※ 1 充電・再生時間は、ボリュームレベルや再生内容により異なります。

※ 2 組みあわせる AC 電源アダプタの性能によって充電時間は変動します。最大 5V/1.2A での充電が可能ですが、供給可能な AC 電源アダプタが必要です。本製品には AC 電源アダプタが添付されておりませんので、充電には市販品をお使いください。

※ 3 防水性能 IPX7 は、水深 1m の水中にスピーカーを最大 30 分間入れても浸水しないと定義されています。

▶ お手入れ

外装の汚れは、乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは、中性洗剤を薄めた液を少し含ませた布でふき、その後乾いた布でふき取ってください

▶ アフターサポート

日本国内のアフターサポートに関する情報は、ハーマンインターナショナル株式会社ホームページに掲載しています。

<https://jp.jbl.com/support-product.html>

Tel : 0570-550-465 (ナビダイヤル)

受付時間 : 土日・祝日・年末年始を除く、平日 9:30 ~ 17:30

▶ 本機の廃棄について



Li-ion

本機は内蔵電池として充電式リチウムイオン電池を使用しています。

リチウムイオン電池にはリチウムが含まれており、誤った使用、取り扱い、廃棄により爆発する危険性があります。

本機に内蔵されているリチウムイオン電池はリサイクルが可能です。本機がご不要となりましたら、一般ゴミなどと一緒に廃棄せず、弊社アフターサポートの窓口へご連絡ください。

ご注意

感電などの危険があるため、本機を絶対に分解しないでください。



- Bluetooth ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。
- Harman International Industries, Incorporated は、これら商標を使用する許可を受けています。
- JBL は米国およびその他の国々における Harman International Industries, Incorporated の登録商標です。



ハーマンインターナショナル株式会社

© 2020 Harman International Japan Co., Ltd. All rights reserved.